

# 「いつまでも ともに」

～100年先も誇れる大野市～

大野市社会教育委員 松田 幸貴（灯そう会 代表）

## 1 はじめに

大野市は、昭和29年7月1日に2町6ヶ村を合併して市制が施行されました。その後、昭和45年7月1日に西谷村を、平成17年11月7日には和泉村を編入合併し、現在の市域となりました。そして令和6年は市制施行70周年を迎えました。



大野市には先人から受け継いできた豊かな自然と産業、培われきた歴史、文化、伝統があります。さらには進取の気象と雪国特有のねばり強さがあります。市制70周年という大きな節目を迎えるにあたり、故郷の優れた点、また解決すべき課題を見つめ直し、愛着と誇りを深め、これからも住み続けたい大野市を模索する機会としたいと考えます。

## 2 実践 取組について

### (1) 市制施行70周年記念事業

大野市において、将来にわたり「持続可能なまちづくり」を実現するためには、市民や団体、企業、行政等が「協働」して、あらゆる方策に取り組むことが重要です。多様な主体が分野を超えて協働・連携し、「100年先も誇れる大野市」をみんなでつくり上げていく機会となるよう記念事業のテーマを「いつまでも ともに」としています。また、基本方針の一つとして、「自然・歴史・伝統文化を守る」を掲げて様々な事業に取り組んでいます。

大野市が主催する事業のほか、「市民自主事業」として趣旨に賛同する市民や団体からの申請によって20の事業が行われます。

#### ☆主な市民自主事業（文化的なもの）

- ・トレモロサロンコンサート
- ・市制70周年祝い太鼓
- ・六呂師高原アルプス音楽祭
- ・市民吹奏楽団ふぁみりーコンサート
- ・トレモロコンサート～越前おおのめいりんオペラ塾～
- ・池坊奥越支部いけばな池坊展～藩主隠居所水無月に生ける～
- ・春を彩る越前おおのひな祭り
- ・星降るランタンナイト
- ・市民吹奏楽団定期演奏会



## (2) 文化振興の担い手づくり

### ①結の故郷・小学生ふるさと芸能発表会

「ふるさとを知り、ふるさとを創る」活動の一環として、市内各地区に伝わる伝統文化・伝承芸能の子ども達への伝承活動を推進するとともに地域における大人と子どもの交流を深めることを目的として芸能保存会や地域の方々の協力を得ながら取り組んでいます。平成25年度から令和3年度まで、「結の故郷・小学生ふるさと芸能発表会」を開催して、各地区の小学生がそれぞれの地域で古くから伝わる伝統芸能や新たに創作された踊りを発表していました。



☆各地区の取組

- しぐさ踊り(下庄地区)
- 雨ごい踊り(乾側地区)
- 小山鍬踊り・小山農民踊り(小山地区)
- 麻那姫音頭(上庄地区)
- 蕨生里神楽(富田地区)
- 昇竜太鼓(和泉地区)

### ②青年活動の復活「灯そう会」

「大野を元気あるまちにしたい」地域を若者の活動(活気)で盛り上げたい」という思いから、20代の男女数人が集まって会を結成。その名も『灯そう会』。これは「大野に元気な明かりを灯そう」という意味が込められています。平成19年に会を結成して17年目を迎



えますが、これまでの活動として、越前大野名水マラソン、おおの城まつり、越前おおの冬物語等の市を挙げたイベントに自主企画で参加しました。また、地域の公民館の行事ともタイアップしてイベントに参加する等若者の力で地域を盛り上げていければ、それが大野市全体を盛り上げることに繋がると、メンバーみんなが楽しみながら取り組んでいます。

## 3 まとめ

結の故郷・小学生ふるさと芸能発表会は、残念ながら令和3年度を最後に開催されていません。開催に向けて協議を重ねていますが、少子化、指導者の高齢化、コロナ禍での市民意識の変化、各職場における働き方改革等、種々の要因が重なって開催の目処が立っていない状況です。

大野市では昭和45年頃から昭和の終わり頃まで、若い世代の活動がとても盛んでした。若者達が自分の住んでいる地区で青年会活動を通して、お祭りや社会奉仕等地域の文化や伝統を継承する中心的な役割を担っていました。

地域において「伝統文化・伝承芸能」を次世代に継承していくのは「人」です。今こそ、次の世代へ脈々と受け継いでいくことができる「人」づくりが、地域文化の振興に必須であると言えます。

生涯学習を通じて「人」づくりを継続し、「いつまでもともに」地域の文化を育み、100年先も誇れる大野市を作り上げるためには、これまで以上の努力と団結が必要であると考えます。